

東交大同窓会会報

第24号

平成十二年三月八日
東京交通短期大学同窓会
発行責任者 川島一郎
編集責任者 西形伸次

臼井仁三氏から 川島一郎氏へ 会長交代となりました

新役員を紹介します

同窓会役員が一部改選されましたのでお知らせいたします。

第三代目の同窓会長臼井仁三氏は、会長就任以来、同窓会の維持向上と、母校と同窓会の連携を強くするなど多くの場面で活躍いただきましたが、数年前から会長交代を申し出ており、この度、富士急トラベルの会長職を退いたことと、住まいが富士吉田市と遠方であることなどを考慮し会長を辞任されました。また、かねてより辞意を申し出ておられ、同窓会設立時から長年ご活躍いただいた副会長の北原忠良氏も体調が優れず交代することとなりました。

新役員は次の通りです。

会長 川島一郎（第十三回生）新任
同窓会設立当時から副会長・編集長
副会長 篠崎正人（第五回生）重任
副会長 天野博昭（第六回生）新任
元富士急行動務（現経理専門学校講師）

副会長兼編集長

西形伸次（第三十二回生）新任

副編集長で数年前から実質の編集長

書記 秋山和瑛（第十一回生）重任

書記 高橋千早（第二十八回生）重任

会計 小林好富美（第十三回生）重任

会計 朝日信弘（第二十八回生）重任

会計監査 堀 丈夫（第一〇回生）重任

会計監査 村越輝夫（第十三回生）重任

総務 福住美佐（第二十九回生）重任

総務 前田豊美（第三十回生）重任

（各期の女性総務担当です）

編集 佐藤英雄（第十二回生）重任

編集 秋谷政和（第三〇回生）重任

編集 中島秀和（第三十一回生）重任

編集 金田新二（第三十二回生）重任

編集 金子泰久（第三十二回生）重任

編集 浅野正巳（第三十二回生）重任

編集 宮本直樹（第三十三回生）重任

編集 矢野貴久（第三十三回生）重任

編集 大村晋也（第四十四回生）重任

編集 泉 隆明（第四十五回生）重任

編集 佐藤 博（第四十五回生）重任

顧問 新井山勝弘（第十一回生）重任

顧問 鈴木靖男（第三回生）重任

顧問 臼井仁三（第一回生）新任

東交大同窓会に思う

第十三回生 川島 一郎



思えば昭和四十八年八月十八日、卒業生有志が集い東京交通短期大学同窓会の設立総会が開催され、あれから既に二十六年余が経っております。

同窓会設立にご努力いただき、さらに初代会長を引き受けていただいた新井山勝弘氏（第十一回生）の冷静な企画力と、若者にも人気のある幅広い人柄により、同窓会の基礎が作られ、活動の方向が形作られました。その形のひとつが、地味ながら継続発行されている同窓会報で、同窓生と母校と在校生を今もしっかりと繋いでおります。新井山勝弘氏は母校の助教授としても、後輩の育成に大変ご努力をいただきました。

第二代の会長には、昭和鉄道高校教諭で、短大でも講師をされていた鈴木靖男氏（第三回生）が就任しました。高校での就職担当の経験や、国鉄の管理部門経験を生かして、鉄道各社等への就職の門戸を開いてい

ただきました。

平成六年から第三代会長は、臼井仁三氏（第一回生）に引き受けていただきました。富士急行から東京交通短期大学へ国内留学として派遣され、母校を卒業後は一般社員から取締役まで要職を歴任。富士急トラベル取締役会長の大変多忙な中で、同窓会長を引き受けていただきました。豊昭学園の体育館建設、東交大校舎の増築、高校の男女共学化・校舎建替えなど、大きな改革時期に同窓会をリードし、学校行事も多岐中で富士吉田市の遠方から何度も駆けつけていただきました。また、毎年の特別講義の講師として在校生の育成にも情熱を注いでいただきました。改めてお礼申し上げます。

昨年秋、東交祭に合わせて開催した幹事会において、臼井会長から第四代同窓会長のバトンを授かりました。私は、国鉄、JR東日本と鉄道業務に携わり、駅長も車掌区長も勤めさせていただきました。一年前からJR東日本グループ会社に勤務しております。小学校中学校と廊下に立っていた時間の方が長く、高校短大も夜学生ですが、東京交通短期大学の卒業生として報われた鉄道人生と感謝しております。学業成績だけでは計れない何かがあると感じています。

同窓会は設立時から関わり、これまで三人の会長とご一緒させていただきました。また同窓会報の発行と発送など地味に活動を続けて参りました。六〇〇名余りからスタートした同窓会も、現在二六〇〇名余りに拡大しました。大勢になっても思いは一つ。母校と同窓生を結ぶ大きな輪にしたいと思えます。これからも地味な息の長い同窓会活動を続けたいと思いますのでご協力をお願い致します。

（株）ジェイアール東日本都市開発勤務）

新ミレニアムの新春に思う

前同窓会長 臼井 仁三



激動の一九〇〇年代が幕を閉じ、新しい千年紀をそれぞれの思いでお迎えのことと思います。私は

昨年の東交祭後に開催された同窓会役員会で会長を辞して、後任会長に副会長としてご活躍をいただいた「川島一郎君」を推薦

し、全員一致で川島新会長が誕生いたしました。在任中のご支援に心からお礼を申し上げますとともに、新会長にご協力をお願い申し上げます。

会社勤めが一段落しますと、地元の皆様から自治会の役員をしてくれとか、神社や寺の役員をしてほしいと、地域社会へのお手伝いの話が持ち込まれ自治会長を無事に終えたと思ったり、昨年末に、氏神様の「三国第一山・富士浅間神社」の責任総代という大役を仰せつかりました。大晦日から元旦には、神社で初詣の参詣者をお迎えし「願い事が叶う」ためのお手伝いをし私自身も、ミレニアムの新年を祝いました。そんな関係で神社庁が主催する「初会」というのにお招きを戴きました。初会の次第は「神宮参拝」「国家斉唱」「聖寿の万歳奉唄」と進行されまことに厳肅なもので、国家護持・敬神を大道とする関係者の集いでサラリーマンでは体験した事のない崇高の雰囲気には圧倒されました。日常的に、初詣をしたり、家に神棚を祀って拝礼をしていましたが、敬神を大道として、世のため人のために奉仕し、国の隆昌と世界の共存共栄を祈る「神職・総代」等の大勢の奉仕者のいることを知り頭の下がる思いでした。

一方、一月十一日の新聞やテレビニュースで、相も変わらぬ成人式での、新成人の暴挙振りが大々的に報道され、初会と比べるべきではないが、あまりの違いにこれで良いのだろうか と危惧を感じました。

壇上に駆け上がり爆竹を投げる、酒を回し飲みして騒ぐグループに注意した警察官の顔を殴る等、二〇歳まで何を学び、何を考えてきたのか、見識を疑った。私の二〇歳は中学を卒業し鉄道会社に就職し余暇に定時制高校で学び、東交大に入学した春だった。まだ日本の進路が見えない敗戦後だったが、真剣に学び、復興日本の担い手になるべく頑張る仲間達で、昨今話題になるような二〇歳はいなかったように思う。神仏を崇敬し、国を思い他人に迷惑をかけない家庭の躰けにあったと思う。敬神を大道にとは言わないが大人として最初の社会貢献をしようとは「私たちの募金」に取り組んだ仲間や、前向きに努力するミレニアム新成人の多くが二十一世紀に向かって立派な社会人を目指していることを思うと、一部の心ない人達の行動を、私達大人も含めて「困った時の神頼み」でなく、新生日本の将来を真剣に考える時だと痛感した。

(富士急トラベル(株)相談役)

三代の学長と私

学長 廣岡 治哉



二年後には、東京交通短期大学も創立五〇周年を迎えます。五〇周年をめざして短大の充実を図ることが私の責務だと考えておりますので、是非同窓生の皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

豊昭学園の六〇周年の記念講演を当時の短大長高橋秀雄先生に頼まれたのが、私と短大との関わりの最初です。高橋先生が運輸調査局の専務理事をされていた時に、私は同局の研究員となり、親しくご指導を受けました。熱海来宮の旅館で、先生と一緒に先生の著書『交通の近代経営』(一九五三年刊)の校正をした頃を懐かしく思い出します。

高橋先生の後任の学長であった今井則義先生は、東大経済学部先輩であり、運輸調査局、法政大学を通じて五〇年間公私にわたって親しくご指導を受けました。昨年

四月故郷岩国の先生の三回忌に参りましたが、その時の公園の美しい桜が今も臉に残っています。

昨年九月に退任されました増井健一前学長は、私の前の日本交通学会会長であり、四〇年間学会で親しくご指導を受けてきましたが、今後もご指導下さるものと思っております。

これら三代の学長の、長年のご薫陶を無にしないように勤めたいと思っております。

就職担当者だより

就職部長 藤原 栄喜



卒業生の皆様は職場にてご活躍のことと存じます。今後のご健闘をお祈り申し上げます。

さて、今年度の卒業見込者の就職内定状況は、現時点(二月十二日)で三十四名の内定者であります。その内十九名がJR東日本鉄道、二名が東京都交通局(一名は都電、

一名が営団地下鉄(女性)、一名が京王電鉄であった。鉄道企業以外は十一名の学生が内定をいただいています。尚、編入学のことについては省略致します。

当短大内における就職意欲の実状から見れば、一七名の在籍者の約八割の学生が就職を希望していたが、実際は約半数の学生が就職セミナーに参加し就職準備をしていたのが実状で、今年度の二年生は普段から就職意欲が低い状況であったと思われる。ところで現在の一年生は就職希望者の八割以上のセミナー参加率で、次年度はかなり期待されるのであります。

今年度の就職戦線を省みることにしますと、まず第一に、本校を通じての採用が少なかったことです(この点は本校だけでなく、お隣の昭鉄高校も同様の傾向であった)。第二に、企業がリストラにより新卒採用者を減らすか、自由応募に切り替えたことが上げられます。

当短大では就職内定率アップを図るために、一年生の十月から二年生の七月まで、毎週一回就職セミナーを開催しております(二、三月は個人就職相談期間)。更にインターンシップ制の導入も試みております。

以上のような状況ですが、後輩達の就職

のために先輩達のご協力とご助言の程を節に期待する次第でありますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

短大の近況について

教務局長 松岡 弘樹



本年も短大の近況についてご報告させていただきます。

一、新・退任教員について

本年度をもって、学長の増井健一先生と学科長の鈴木順一先生がご健康上の理由から、また、前副学長の関根恒郎先生、芹澤純子先生、山野辺義方先生、宮本清四郎先生、四名の先生方が短大の定年制の導入に伴いそれぞれ退任されることになりました。

紙面の都合から各先生方のご功績を詳しくご紹介できないのが残念ですが、各先生方とも長年にわたり短大の発展のために尽力を尽くしてこられた方々ばかりです。先生方の長年にわたるご尽力に感謝を申し上げます。

げるとともに、今後のご健康とご多幸、そして益々のご発展を短大教職員一同、心よりお祈り申し上げる次第です。

また、増井学長の退任に伴い、法政大学名誉教授の廣岡治哉先生が新学長として就任されることとなりました。廣岡先生のプロフィールについては、別項でご自身がお書きになられていることとしますので割愛させていただきますが、先生は交通学会の会長も務められた交通関係の大家であり、我々教職員一同先生の手腕に期待するものであります。

二、学校行事について

平成十一年度の学校行事について、前期には、四月にオリエンテーション、五月に昨年度と同じくハタスポーツプラザでボーリング大会、七月にオープンカレッジの各行事を実施いたしました。後期には、十月に東交祭および交通見学会（東京モーターショウ見学の後、幕張プリンスホテルにて洋食マナー講習会を実施）、十二月にゼミナール大会の各行事を実施し現在に至っております。

三、時間割について

平成十二年度の時間割表（案）、特別教養講座の日程（案）が別表のように決まり

ました。毎回ご案内いたしておりますが、特に公開講座である特別教養講座への同窓生の方々のご参加をお待ちしております。久しぶりに学生気分を味わってみるのは如何でしょうか。

最後に、これも毎回皆様にお願ひしておりますが、短大も少子化・不況等の影響で多くの難問を抱えており、非常に難しい時期にさしかかっております。我々教職員一同、一丸となって頑張っておりますが、特に、入学者の募集・就職等に関して、同窓会員の皆様のさらなるご協力・ご支援をお願い申し上げます。

入試・広報便り

専任講師 沼田 憲治



担当者として、本年度の広報・入試関係について、ご報告いたします。

度の入試について。昨年十一月に推薦入試

まず、平成十二年

（内部推薦を含む）を実施し、受験者九十八名中八十四名を合格としました。この数字は昨年と比較して、受験者数で二十二名の減少、合格者では十七名の減少となっております。これは、昨年度の受験者数の多さがやや異常だったことや、少子化の影響で各大学が軒並み受験者数を減らしていることを考えれば、決して悲観すべき数字ではないと思われず、もちろん、樂觀できる状況でもないことは確かであり、今後さらに広報・宣伝活動に力を入れていきたいと考える次第です。一般入試は、二月二日に行われ七十五名（昨年度九十四名）の受験者中、三十六名（昨年度十八名）が合格いたしました。一般入試合格者が推薦入試合格者の半分以下という比率になりますが、今後もこの傾向が続くと予想されます（昨年度の場合は、やや極端ですが）。また、一般入試の受験者には、現役の高校生以外に四年生大学の在籍者や卒業生、あるいはすでに仕事に就いている方もかなり見受けられたことを付け加えておきます。

次に、広報関係から一、二点。今年度から豊昭学園全体がインターネット環境にお

かれたことは、ご承知の方も多いと思えます。そこで、短大でも遅時きながら現在ホー

平成12年度 特別教養講座カリキュラム(案)

(土曜日) 18:25 ~ 19:40

(敬称略)*は本学卒業生

開講日		講 演 者	テ ー マ
4月15日	森田 喬	法政大学工学部教授	地図に見る交通
4月22日	斎藤 順治	JR東日本(株)東京支社総務部人事課担当課長	JR東日本の現状と採用の将来
5月6日	久保 敏	三菱電機(株)交通事業部中国高速鉄道プロジェクトチーム室長	高速鉄道と鉄道システム
5月13日	小池 知之	拓殖大学商学部講師	異文化コミュニケーションと英語教育
5月20日	杉田由紀子	杏林大学講師	サービス産業におけるホスピタリティ・コンセプト
5月27日	野尻 俊明	流通経済大学教授	わが国における規制緩和の展開と今後について
6月3日	宝剣純一郎	帝京平成大学助教授	インターネット
6月10日	石田 宏之	豊橋創造大学経営情報学部教授	ロジスティクス時代のトラック輸送産業
6月17日	荻原 俊夫	東京急行電鉄(株)交通事業部鉄道部専門部長	東京急行電鉄の鉄軌道業について
6月24日	高橋 敏夫	拓殖大学副学長	21世紀の情報社会における個人と企業
7月1日	神立 哲男	JR貨物企画部副部長	日本における鉄道貨物輸送
7月8日	鈴木 克典	駿河台大学助教授	通勤用航空の現状と将来展望
7月15日	菅 建彦	東日本鉄道文化財団専務理事	世界の鉄道と日本の役割
9月16日	柴田 伊冊	新東京国際空港公団運用本部副主幹	空港から見た航空交通の1日
10月14日	岡田 純一	大学基準協会高等教育研究部門非常勤研究員	図書館のあり方と利用法
10月21日	新井福之助	毎日新聞旅行史跡探訪専任講師	列車・航空機・船舶などの窓より見る歴史地理景観
10月28日	*川島一郎	(株)JR東日本都市開発総務部担当部長	元気なJR東日本グループ企業
11月4日	井上 浩	高山短期大学講師	観光アトラクションとその経営
11月11日	成瀬 敏郎	東京情報大学教授	ネットワーク社会と法
11月18日	*臼井仁三	富士急トラベル(株)相談役	社会人としての心構えについて
11月25日	数野 昌三	産能短期大学講師	旅行契約上のトラブルに関する裁判例
12月2日	加藤あけみ	元リバプール大学客員研究員	くらしとマルチメディア
1月13日	君島 光夫	アジア航測(株)技術顧問	地下鉄誕生と早川徳次

特別教養講座は公開講座です。特に卒業生のみなさんは無料で聴講できます。
事前に短大事務局へお問い合わせの上ぜひお越しください。

1 年次					平成12年度 時間割表 (案)					2 年次
第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限		第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
2:20	3:40	5:00	6:25	7:45		2:20	3:40	5:00	6:25	7:45
ドイツ語 (大久保)	歴史学 (安彦)	体育実技 (菊池)	法学 (渡邊)	一般教養 講座 (廣岡・ 松岡・ 福住)	月	経営管理 論 (安彦)	経営情報 論 (神谷)	経営法学 (松岡)	旅行論 ゼミ (藤原)	民事法 ゼミ (渡邊)
(前期集中 旅行業務 論 (福地)	海外旅行 実務論 (勝岡)	心理学 (兼高)	仏語 (沼田)					鉄道史 ゼミ (福住)	交通判例 分析ゼミ (松岡)	
統計学 (岡本)	交通概論 (福住)	交通経済 学 (上遠野)	環境科学 概論 (中村)		火	交通史 (福住)	鉄道運転 論 (山本)	国際観光 論 (中山)	自動車 交通論 (上遠野)	
(前期集中 旅行業務 論 (福地)	(前期集中 旅行業務 論 (中山)							(後期) 都市計画 論 (高橋)		
観光地理 (市川)	経営学 (吉田)	交通経営 学 (秋山)	文学 (沼田)		水		観光地理 研究 (市川)	海運論 (山岸)	交通政策 論 (植村)	
英語 (沼田)	簿記論 (佐藤良)						欧米文化 論ゼミ (沼田)	航空論 (松下)	都市・地 域交通論 ゼミ (秋山)	
哲学 (篠原)	自然科学 概論 (佐藤信)	コンピュ ータ実習 (小坂)	情報概論 (水谷) (井関)		木		観光事業 論 (小池)	サービス 産業論 (小池)	コンピュ ータ実習 (小坂)	
	交通関係 法規 (松岡)	経営経済学 (亀川)					基礎経済 学ゼミ (亀川)	(後期) 海外鉄道 論 (青木)	(後期) 通信概論 (小野寺)	
(前期集中 旅行業務 論 (中山)	鉄道工学 (山本)	(前期集中) 観光関係法規 (藤原)			金			観光事業 会計 (井上)	ホテル 事業論 (石隈)	
保健体育 論 (坂口)	観光学 概論 (井上)								(前期) 通信概論 (花山)	
経済学 (長谷川)	中国語 (謝黄)	交通工学 (樋口)	特別教養 講座		土		社会政策 研究ゼミ (長谷川)	鉄道経済 論 (秋葉)		
							物的流通 論 (野村)			

ムページの作成に取りかかっております。これは、昨年末学内でホームページコンテストを開催したところ、一人の学生から非常に優秀な作品が寄せられましたので、それを土台にして作られているものです。やはり、小さいうちからコンピュータに慣れ親しんでいる世代ならではの、なかなかユニークなものとなりそうです。多少技術的な問題があつて完成が遅れており、この場でアドレスを発表できないのが残念ですが、四月には開設されるはずですので、ご確認の上、皆様どしどしアクセスして下さい。もちろん、われわれ教員にも一人一人電子メールアドレスを持ちますので、そこからでも通信が容易になります。交通短大のホームページが、同窓会のさらなる発展に少しでも寄与できれば、これに勝る喜びはありません。

また、本会報とほぼ同時期に、短大の学内報『オンライン』が発行されます。短大と学生を結ぶ絆として誕生した『オンライン』も、よつやく軌道に乗りつつあります。ただ、残念なことにスタッフ不足等により、今号からは年一回の発行となりました。しかしその分、より内容を充実させ、教師と学生との、さらには同窓生の皆様との交流



会員解放区

一筋の道

第二回生 斉藤 恒



卒業の時戴いたアルバムを開くと、当時の姿、そして賞状には、昭和三〇年三月二十七日の文字が、

鮮明に写っている。

昭和二十六年高校を卒業、西武鉄道へ入社した。学歴無用を唱えていた会社ではあつたが、入社二年経ち仕事にも馴れ、多少気持ちにも余裕が出来る、勉強不足が痛感された。丁度その頃働きながら交通関係について学べる大学があることを知り、仕事に役立つのではないかと信じ、昭和二十八年四月に入学した。自宅から駅までは自転車、電車で約一時間、池袋駅から徒歩という訳で、片道約一時間四十分余りの通学であった。農家の夜は早く、帰宅すると家族

はとうに熟睡、しかし静かに味噌汁を暖め夕食、床に就くのは十二時を過ぎていた。今思うに二年とはいえ、よく辛抱出来たものと我ながら感心している。

卒業した年の昭和三〇年六月、会社の昇格試験があり学習の成果が発揮でき、昇格辞令を頂けた。将来のためにとの上司の薦めに従い、電車運転士見習い六ヶ月。昭和三十一年三月国家試験に合格。甲種電気車操縦者の免許を取得し電車運転士に。四年後の昭和三十五年助役登用試験合格。同年十月駅助役拝命。一年九ヶ月後、昭和三十七年七月本社勤務を命ぜられ、管理部門での業務十五年。昭和五十二年駅長。昭和五十四年乗務所長。昭和五十五年本社課長。昭和六十二年駅構内営業総括支配人。平成五年三月定年退職となるまで四〇余年、一筋の道を歩めたのも、大学でのご指導の賜物と感謝の日々を送らせて戴いている者です。



最近の短大・大卒について

第三回生 鈴木 靖男



最近、短大・大卒の就職難であると、新聞その他の情報で大きな問題となつて

いることは、学園も、十分に認識し、それに対する対策を心得ていることと思うが、残念ながら、日本では「一つ」しかない、交通短期大学として、入学募集してきた交通短大が、学園祭で、鉄研なんでも「Q&A」を開催という「パソフレット」を見て、なんと情けないことか。短大の先生が解答するのではなく、他の学校の先生に依頼して解答するということで、卒業生の私としてこんな残念に思ったことはない。

平成九年三月に、朝日新聞が発表した記事に、短大・大卒いま専門校生、就職難で増える再入学、学歴だけじゃない、技術を得たい、自分の価値実感という見出しで、四年制大学や短大を卒業したあとに専門学校（専修学校専門課程）へ通う学生が増え

ている。

高学歴化が進み、大卒というだけでは就職が厳しくなったことが背景とみられるが、学生側には「大学や短大は学歴のため、社会に出て役立つ資格や技術は専門学校で」と割り切った思いも浮かがる。こうした層を積極的に取り込みたい考えだ。大学、短大、専門学校の境界があいまいになりつつあるとの指摘もある。

ある専門学校外語学院の卒業式の、送辞答辞、あいさつはすべて英語だったという。その卒業生のうち四年制大学や短大を卒業してから入ったのは三十一人。その中には、英検や秘書検、OA機器など八つの資格を取った学生もいるという。更に、平成十年十月のある新聞の記事に、北海道教育大学を卒業したが、すぐには教員にならないで、一年間ボランティアの道を選んだ卒業生がいたことが新聞記事にあった。

それでは、交通短期大学はどのようなのか、JR、私鉄に入社した最近の学生は、一部を除いて、鉄道の基本は何も知らない。ただ交通短期大学を卒業しただけで基本的な教育はどうなっているのか。その一例を、学生論文集を読んで、発表した学生には申し訳ないが、根本的に過った発表をしてい

るのには驚きを感じた一人である。これは発表した学生よりも担任教師の無関心が浮き彫りにしたものである。

そこで、交通短大においても、資格の取れる科目を取り入れるべきであると思う。

私の生涯学習

第三回生 百村 豊吉



私は教師を定年退職した後、何か社会に對して役に立つことのできるものはないだろうかと考えていたのである。

そこで根室高校の図書室で河合隼雄先生の「心の時代の対応」を読んでいる時に、非行少年のラベリングに安住することなく、一人の人間として理解し、人間的成長を援助することによって立ち直らせている保護司の姿勢を読んだ時に、よしこの仕事を一生のライフワークとしてやってみたいと考えたのである。

そして平成六年八月の夏休みに札幌に帰省し、札幌保護観察所を訪れる。そこで平成八年三月の定年後に保護司をさせて欲しいのです、と申し上げたところ、庶務係長さんが対応され、次のように説明される。

当保護観察所の署管には一九二〇名の保護司があり、各地区ごとに組織されて人数も決まっており、まず欠員が生じた場合に推薦され、更正保護委員会の推薦委員の方々に審議されて承認され、はじめて保護司となるのです。といわれる。ですから簡単になれるものではないことがわかる。取り敢えず保護司になりたい意志を伝えて帰る。

月日が経過して忘れかけていた時、平成九年六月のはじめに、保護観察所より連絡が入り、五月一杯で退任される方が生じましたので、保護司を希望されますか、という事で、即座にぜひやらせて下さい、という返答をする。二日後に書類が届けられ、その日の内に記入して、役所に届ける。平成九年十一月十三日に内定通知書が届く、その通知書の中に十二月一日に辞令伝達式及び研修会が開催される内容の旨の文書も入っていた。

それから三人の少年の処遇と受刑者二人を担当する。しかし、少年二人は解除され

ている。特に対象者との面接は公正でより客観的な面接が要求される。

そこで私は北海道大学の大学院教育学研究科に挑戦して勉強したいと考えているのである。

(マンションマネージメントサービス(株)勤務)

退職して思うこと

第三回生 堀内 義夫



今年は二〇世紀最後の年、だが既に二十一世紀を意識し新しいミレニアム(千年紀)元年です。歳

月の流れは早いもので、東交大卒業以来四十四年になるうとしております。富士急行(株)東京支店からJR池袋駅下車、徒歩で通学したのが今は懐かしく思い出されます。夜学二年間の大学生活は仕事と両立させる難しさはあったが、後になって考えればそれが貴重な体験となり、運輸、観光の仕事をする上で私の励みとなったのかもしま

せん。また先輩各位のご指導をいただき、それにすばらしい友にも恵まれ感謝している次第です。

最終楽章、美しからず

第四回生 大木 美一



昭和三十二年三月二十八日に、卒業証書を戴いて四十三年の星霜が過ぎました。昭和は遠くサヨウナ

業務につき、役員の末席に名を連ねることができました。平成八年からは子会社の経営を担い懸命に努力を続けていますが、どうにも収支のバランスがとれず、苦戦を強いられています。平成不況の長い暗いトンネルに曙光の見えぬまま物流業界にあつて大競争に抗し、心の安まる「いとま」とてなく、只ひたすら頑張つていますと 同窓会報で近況を報告する事について、内心忸怩たるものがあります。些細な事ですが、本年六月の定時株主総会で退任いたします。そして、今期は当期利益を計上することが出来ない決算に切齒扼腕、小生の最終楽章を美しく飾れず、非常に残念で、悔いの残る終章です。

等、日夜生産に励んでいます。現在はその委員も努めています。農業を取り巻く環境は厳しいものがあり、後継者不足から遊休農地が増える傾向にあります。今後の魅力ある農業経営を念願するとともに農業哲学五ヶ条を提案します。

一、まず土壌をしっかりと造ること
二、しっかりとした種、苗を植えること（このよつた種は、日照り異常気象にも耐える）

三、しっかりとした管理をすること（管理を怠らなければ成果を得る）
四、収穫すること（収穫のよろこび）

五、感謝すること（感謝の心）

この五ヶ条は、人間育成、企業経営にも当てはまります。なお、個人的には自己管理への努力、趣味を生かす、古い時代の感覚の改善と、今も通じる昔の良さを次世代に伝える努力が肝要ではないでしょうか。

ラ、平成十二年よコンニチワ 昭和三〇年に、ふるさと盛岡から笈を背負うて上京し、入学時から国鉄の現業職員として働きながら、奨学金を頂戴しての二年間、自分なりに本当によく勉強したと、自分をホメてやりたい。（どこがで聞いたセリフ）

一心不乱に学ぶ喜びが勤労の辛さ苦しさを、微塵も感ずることなく卒業することができました。このことも机を並べた良き友人達に恵まれたと深く想いをしています。

卒業後は非現業の登用試験に合格し、東鉄局営業部貨物課勤務、その後、国鉄本社貨物局と貨物畑一筋に務め、昭和六〇年に定年退職となりました。

リタイヤ後は第三セクターの嚆矢となつた京葉臨海鉄道株に入社、主に総務関係の

杜甫の詩に由来する「人生七〇年、古来稀まれなり」と賀寿の中にある「古希」ですけど、小生もこの二月末に古希を迎えましたが、すこぶる健康で頑丈に生み育ててくれた今は亡き両親に多謝。

しかし、こんな話もあります。「古希」も近年まれではなく、寿命が延びて古希を越えた人々が右往左往と数多く、近代ざらに存命していることから、古希近代ザラというそうです。少子高齢化の波は高く容赦なく打ち寄せる昨令、入学する学生も減少

の様相を呈しているようですけれど、東交大の持つ、特殊性、専門分野での持ち味を充分發揮され、益々の御隆盛を念じてやみません。

最後に、同窓会報の編集発行に労を惜しまず、献身的なご努力を賜っています事務局、関係者の皆様に深甚のお礼を申し上げます。ペンを擱きます。

“有り難うございます。”

(京葉臨海通運(株)常務取締役)

回想

第六回生 長谷部 英雄



東交大在学中を回想する機会を与えられた。すでに四〇年の歳月が過ぎ、当時のことが走馬燈のよ

うに甦り、同窓生の顔が思い出される。同期生は三〇名位であったと思う。四、五人を除けば交通関係の仕事とは無縁の地方出身の集団就職者であり、次の仕事に役

立てようと入学した者ばかりだった。

今考えると当時の東交大は、設備も授業内容も十分ではなかったが、皆、向学心に燃え、仕事が終わった後の疲れた体で授業を受けていた。いつも十五、六人の授業だった。一番の楽しみは、休講になった時池袋駅近くの喫茶店で将来の夢や、人生観等を時間の過ぎるのも忘れて語り合うことだった。鉄道や交通企業への転職を夢見た仲間も、鍋底景気時代で元の仕事先へ戻っていった。以来、数名の友と文通だけの交際をしている。東交祭等への参加も出来ずに過ぎているが、同期生は自分の道を切り開き悔いのない人生を送っていると信じている。自分は、東交大での知識を生かすべく、警察官として交通の仕事をしたが、意に反して刑事となり、警察社会で定年を迎えた、現在は自動車教習所の責任者として、交通事故を起こさない免許取得者の教育を行っており、多少でも東交大に在籍していたことを生かせればと頑張っている。

現在の東交大は、設備も授業内容も充実して立派な卒業生を送り出しており、大変うれしく思う。益々のご発展と同窓生諸君のご活躍を祈念するものである。

(米善自動車学校 校長 管理者)

食堂車

第八回生 佐久間 國吉



機会あって節目の二〇〇〇年一月一日ひかり一二七号(グランドひかり)にて、広島へ行く所用で乗車。その日の内に広島へ着けば良かったので、敢えてひかり一二七号に乗車。それは食堂車が連結されている東京発の最終(東京駅発十六時七分)である。東海道山陽新幹線の下りで食堂車が連結されているのは、既に四列車のみ、寂しい限りである。かつて優等列車(特急、急行列車)には、ほとんど食堂車が連結されており出張或いは旅の時、一つの旅情の空間であり小生にとっては、利用する事が唯一の楽しみであった。名古屋を過ぎて八号車二階の食堂車に行ってみた。時間帯からみて(十八時過ぎ)かつてなら盛況をきわめほぼ満席であっただろうが約四〇席に、五、六人の利用客。進行方向の窓側に席を取り、ビールにビールフィンチューを注文。過ぎゆく灯り、ネオン、

長良川、木曾川、揖斐川を渡り関ヶ原の間に、何とすばらしいひと時。今や食堂車の存在すら人々は忘れ去り、又は知らずして知る者しか利用しないのではないかと思われる。

言つ迄もなく現在、北斗星、カシオペア、トワイライトエクスプレスと一部のグランドひかりのみしか食堂車は残っていない。しかも今年三月には、グランドひかりの食堂車は廃止の憂き目。かつてブルートレインの元祖あさかぜ、はやぶさ、富士等に毎年夏道楽の旅で東京駅から乗車、待ち切れず、六郷鉄橋を渡り川崎駅通過時に食堂車の待合い席で一番乗り、横浜に停車、冷房の強く効いた食堂車で、ホームの通勤客を尻目に、ビールを飲んだあの優越感、段々と遠い過去の思い出となりつつ。新神戸を過ぎ席に戻り、最後のひかり号の食堂車の余韻を思い夜の広島へ向かった。少なくともいつある食堂車、古き良き時代の旅情空間、時代の変わり目の一つの事柄の様に思われます。又いつの日か復活の兆しを願ってやみません。

(玖栄堂貿易勤務)

皆さん今日は、お元気ですか。

第十回生 田嶋(旧姓根岸) 政明



同窓会報は、先輩の諸君がそれぞれの職場で頑張っている姿、活動を楽しんでいました。ところが今回、私の所に原稿執筆の依頼があり、虚弱体質の私は狼狽し、脳が酸欠状態であります。

私達四十九名は昭和三十六年四月〜三十八年三月二十八日卒業までの二年間学びました。大半が交通機関等の職場で働く人々で公務員は私と一、二名でした。

昼間は仕事に追われ、夜は緊張した中で勉強、大変苦しくもありましたが、数学、英語、哲学、経済学、交通総論等、現在の日課表と比較し時代の流れを感じさせます。

放送大学を平成四年入学、七年度卒業し、単位認定の件等で東交大へ何十年ぶりに訪ねました。校舎入口の機関車を見、四十年前高崎線深谷駅から職業人として出発した時を思い起こし、終点に近い今過ぎし四

十一年の公務員生活は只忙しく夢中だったとふり返っております。

卒業年次の昭和三十八年二月、豪雪に伴う災害派遣で新潟県長岡市付近に出勤し、約二〇日間雪と斗いました。その為卒業試験の一部受験できず、留年かと大変心配しましたが選択科目のため助かりました。在学中の出来事としてなつかしく思い出します。

全国におよぶ卒業生の皆様のご活躍と在学中の学生諸君のご健勝と発展を祈念いたしまして、埼玉県大里郡岡部町から校了と致します。

(埼玉県消防学校勤務)

蒸気機関車の動態保存に関する事

第三十一回生 中島 秀和

最近あちらこちらで蒸気機関車が復活している。何らかのシンボル、趣味の活動、文化財、観光資源など、目的はいろいろあるが、いずれにせよファンとしては嬉しいことである。だが安心してられない。

今後も増えつづけなければ何らかの問題が出てきてもおかしくない。いま思いつくのは二つある。一つは、数が多くなると観光資源としての魅力が無くなる。つまり共倒れになることである。山口線はC57形で、真岡鉄道のはC12形、成田のはナローゲージで、種類が違うから別物であるというかも知れない。ファンのや文化的にはそうであるが、一般的には普通のとトロッコ用、見るだけの物と乗れる物の区別があるくらいであろう。

もう一つは環境問題である。なぜ蒸気機関車がなくなったかを思い出してほしい。理由の一つに煙の問題があった。今は数が少ないからさほど問題になっていないとは思えないが、数が多くなれば問題になる可能性はある。最近は大イオキシンの問題など、野焼きや工場のちよつとした煙・臭いなどで苦情が出る。蒸気機関車もそのうち問題になるかもしれない。一カ所で問題になると、ほかに波及しやすいので問題にならない(少なくとも表面化していない)うちに、環境影響評価や対策などを施し蒸気機関車の火を絶やさないようにする必要がある。環境と蒸気機関車の両方を守るため、何らかの制限が必要なのである。

あのころ・一

我が良き後輩達よの巻

第三十七回生 進士 恭一



(前回のつづき)

僕自身が“あのころ”を回想する時、絶対に避けて通れない事柄があったことに昨日気がついた。今回はそんなお話をしましょう。

その頃僕はごく稀にはあるが、通学に車を使っていた。しかし、二次次の中盤になると、ちよつと思つところがあつて、ごく稀に、殆ど毎日使用するようになってしまった。“今日こそは”という気持ちで川越街道(たまに首都高速五号線)を愛車ミラビリアンでひた走っていた。そして夕刻、学校に到着し、辺りを見回すとそこには“やっぱり”足立ナンバーのスバルレオーネが既に鎮座していた。ただでさえそれだけでもその日の気分はブルーなのに、そのような状態に止めを刺すかの如くもう一台、沼津(時折所沢)ナンバーのトヨタ車(確

かコロナとかクラウンの記憶)が止まっていた日にはあつた、もう気分は黄褐色か群青色かという感じで、授業を受ける気になれなかつた。そんな熾烈な恋の争奪戦を繰り広げた(?)うちの一人、T塚(学年的には後輩だが、実際は僕と同じ年齢)とは、近所のよしみで卒業後は飯を食つたり、飲んだり、お互いの家を行き来したりとよく遊んだ。

そんな彼を筆頭に僕らの後輩にあたる三十八回卒業生の連中は、三十七回生に負けず劣らず、良し悪しは別にして、様々な伝説を残した個性豊かなキャラが揃っていた。集団だつたなと“先輩”の目には映つた。たとえば今は懐かしアドベンチャーサークルの当時唯一の新入部員であつたM山は、体格のわりに小心者で、そのくせキレると手のつけようがなかつた。ボーリングが上手く、当時開催されていたボーリング大会でも上位入賞を繰り返した。免許取りたて(だったと思う)の彼はよく僕のミラで自ら運転の練習をした。おいM山、相変わらずピアツアに乗つてるのか?それから体にハンデがあるにもかかわらず、いつも明るく元気な性格で皆に愛嬌を振りまいてた山ちゃん(彼だけは敢えてこう呼

ばせて)は卒業後もよく近況報告等の連絡を頻繁にくれた。山ちゃん、彼女とはまだうまくやってるの？

郵便局に勤める東北訛りが妙に愉快なN野は僕よりも先に試験を受けて職員になったが、仕事と学業の両立が難かしく、たたく、よく悩みがあるって言っちゃあ僕に打ち開けていた。彼ももう十年選手なので、そんな悩みもないと思うが、N野、いつでも相談のつてやるよ。

他にも卒業後流転の人生をさまよっているS谷、僕の地元葛西のトンかつ屋で会ったことのあるK、第三回ボーリング大会の優勝者で、僕の家の目と鼻の先にあるアパートに暮らしていたK館、交通博物館で碓氷峠の写真展を開き、碓氷峠の廃止反対運動を大マジでやったM田、そしてその彼氏のF田、前述のボーリング大会において、その独特の投球フォームから「五木ひろしのニックネームがついたK立 みんな僕にとつては最高の後輩達であるが、彼ら、特にT塚、M山、山ちゃん、N野に言いたい。「お前ら、たまには連絡をよこせ！」

娘のことを。そういえばすっかり忘れていたよ。言われてみれば、あの娘はどこ行っちゃったんだろうね。「バラ色の珍生」にでも応募してみようか、と冗談をほめかしつつ、彼ら(彼女ら)の幸せを祈らずにはいられない。

そのような感じで、長い短大の歴史の中でもこの三十七回生と三十八回生が在籍していた一九八九年が一番輝いていたのではないだろうかと一人勝手に思い込んでいる今日この頃である。

(都内郵便局勤務)

二十一世紀に乾杯

第三十九回生 須田 克行



一九九九年の幕開けは、たった一人の詰め所から始まった。岩石崩落の為、不通になっている下仁田の朝はまだ薄暗くて寒い。身支度を整えバスに乗り南蛇井駅へ行き、点呼を受け、初

日の出が見えたのは終点高崎駅近くだった。沿線住民の少子化、過疎化と一〇〇七も度も経営の行き詰まりの説明があり九九春闘は最悪の結果を招くと思われた。

また、かねてから狙っていたRV車の生産中止も相まって、在職七年間にケリを付け、自宅近くのほたか保健福祉専門学校に入学し、介護福祉士の資格を目指して、日々勉強に励んでいる。

介護福祉士には女性が多いと思つて入学してみると、男性が七割を占めていた。一部、二部の入学者数七十八名中半数は中途の方々にサラリーマン経験者や主婦の方もいて、年齢層が幅広いのには驚いた。二年生の就職率は六〇%位で、四月一日から施行される介護保健制度の影響で各施設が拒んでいる状況である。

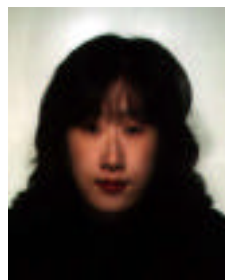
これからは高齢時代なので、交通業においてもバリアフリーが叫ばれている。少しでも高齢者や障害者が安心して暮らすことが出来る様に努力していただきたいと思う。

あと一年、実習やボランティアを通して今まで以上に介護を身に付け二十一世紀には、立派な介護福祉士に成りたいと思う。

(ほたか保健福祉専門学校一年)

チャンスの神様は前髪しかない

第四〇回生 小林 育代



寒さが一段と厳しくなつて参りました。この時期になると新聞やテレビのニューズで、願書提出、セミナー試験等の言葉を良く耳にします。「ああ、もうそんな時期なんだ！」と自分が学生だった頃を思い出します。卒業し七年という月日が経ちますが、社会人となっている今、思うことがあります。

学校では、アルバイトをしている人、正社員で働きながら学んでいる人、サークルに力を入れている人、資格を目指している人、人それぞれだと思います。学校を卒業し社会人となつても、やる気さえあればいくつになつても、どんな事でも出来きます。

ただ私が思うのは、短大に入学し、せっかく二年間という素晴らしい学ぶ期間を与えられたのだから、絶対のチャンスを自分自身でつかんでほしいという事です。チャンスの神様というのは前髪しかないと言わ

れています。自分の前を通つた時に後ろ髪ではなく前髪をしっかりとつかんでほしいと思います。

私自身、社会人の立場から考えると、二年間という期間はなんて沢山の事が出来る時間なんだろうと思います。やはりただ何となくと生活することは時間を無駄にしています。後からその事が、直接自身身に役立たなかったとしても、必ず人間として、経験となり素晴らしい財産となる事でしょう。

自分は海外に永住したい、お店を持ちたいなど興味ある事、こうしてみたいと思う事、友人がやっている事、何でもいいと思います。

私の知人で将来はコンピュータ関係へと考えていた人が趣味で入ったガラス工芸のサークルでもおもしろさを知り、現在日本を代表するガラス工芸家となっている人もいます。

まずは、きつかけです。皆さんもチャンスの神様の前髪をつかんでみてはいかがでしょうか！

(通信会社派遣社員)

今の自分

第四十四回生 大村 晋也



私は現在、国家試験である“動力車操縦者運転免許”(簡単に言えば、電車を運転する免許)を取

得し、運転士になるための研修を受けています。自動車免許とは違い学科講習と技能講習が別々で行われます。まず、学科で電車の構造と動くしくみ・運転法規や運転理論・異常時における運転取り扱い・故障時の応急処置など、覚える事がたくさんあり、なおかつ合計9科目もある学科試験に合格しなければなりません。この試験をクリアすると、今度は実際の電車を操縦するわけですが、学科では約三ヶ月、技能においては約五ヶ月の講習課程という非常に長期に渡つての研修です。技能講習は、指導操縦者の運転士、いわゆる「師匠」について運転実技の訓練に励むことになるのです。この間に自分の担当する線区の信号機の位置、カーブや勾配等での制限速度、そして一番



資格と就職

第四十六回生 井上 麗

同窓生・教職員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は平成十一年三

月に卒業後京王電鉄(株)に入社し、現在は運

大切なのが、駅を発車し、到着する時のブレーキ扱いを、身体にたたき込んで、覚えなければなりません。一人前の運転士になるための最後のハードルである技能試験に合格すれば、ようやく免許が取得でき、運転士として活躍が出来るのです。私の運転士への道のりは長いですが、運転士としての基本を守り、安全・快適・正確をモットーに努力を積みかさね一人前の運転士を目指し励んでゆきたいと思っています。

最後に、一人前の運転士になりましたら、卒業生の皆さま、是非、乗りに来て下さい。(東日本旅客鉄道(株)千葉支社京野運輸区勤務)

輸部渋谷駅管区に配属され駅掛員として勤務しております。戦後最大の不景気・就職難の中、無事に就職をする事ができたのも東交大の諸先生の御尽力によるものであり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。御存知の通り昨今は就職超氷河期と言われ、毎年何十万人もの就職浪人が生まれています。その中で就職戦線を勝ち抜くポイントとは、やはり“資格”だと思います。私の所有している資格は、普通第一種自動車免許、国内旅行業務取扱主任者、公安委員会の発行する警備員指導教員責任者(警備員法定教育の際の師範免状に当たる)の三つです。その他に今後取得予定の資格として衛生管理者・消防設備士・行政書士なども考えています。本校卒業生の中には、今就職先が決まらず苦労している方も多いと聞きます。就職戦線を勝ち抜くには自己と他者の差別化を如何に図るかという事が重要であり、その為の手段が自己の能力を客観的評価として表現できる“資格”だと私は思います。色々書いて参りましたが、最後に皆様の御健康と御多幸をお祈りし終わりの言葉とさせていただきます。(京王電鉄(株)勤務)

会計報告書

(平成10年4月1日~平成11年3月31日)

平成11年4月1日

東京交通短期大学 同窓会

収入の部			支出の部		
項目	金額(¥)	適用	項目	金額(¥)	適用
繰越金	621,690		集会費	92,400	幹事会(1998.10.3)
会費	505,000	¥5,000×101名	事務費	1,575	事務用バインダー
臨時会費	60,000		通信費	217,830	会報第23号発送代,東交祭案内等郵便代
雑収入	15,823	会員からのご寄付,預金利息	渉外費	104,673	学園70周年式典花盛代,会長賞記念品代,卒業式・東交祭ご祝儀他
			会議費	4,000	幹事打合せ
			雑費	10,061	事務消耗品費
			繰越金	771,974	
収入計	1,202,513		支出計	1,202,513	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

平成11年4月1日 会計監査 堀 丈夫、村越 輝夫

現在の職業に就くまで

第四十六回生 鈴木 一成



私は、幼い頃から
の夢だった鉄道会社
への就職を目標に山
形から東交大へ入学
した。二年という短
い期間、交通に関する基礎的な知識を学び
将来に役立つ様にと必死になって頑張った。

二年になり就職活動が始まると、それが
人生の大きな山場である為に、目を合わせ
る一人々がライバルと化したのである。競
争が好きでない私は、先を考えるだけで気
が重くなり、つらかった。友人が「互いに
頑張ろう。」と言ってくれた言葉は何より
の励みだったが、就職が困難な時期でも
あった為、その言葉は厳しく聞こえた。今
までは親や先生方が支えてくれたが、就職
活動からは、自分で努力するしかなく、周
りに同じ人がいても誰も助けてもくれない。
という事を実感した。資料請求を行い求人
募集しているか見たが企業の多くは、経営
が厳しい為に求人を行っていない所がほと

んどだった。本格的になって来た頃、日本
を代表するJR東日本旅客鉄道(株)や他の鉄
道企業に試験を試みたが、受験した企業全
てがアウトだった。精神的に疲れていたが、
中小私鉄を受けることにした。最後の力を
出して直接交渉に行き、何度も頭をさげた
結果、関東一小さな私鉄、銚子電気鉄道(株)
に努力が実った。本當にうれしかった。

(銚子電気鉄道(株)本社勤務)

最近のアルバイト

第四十八回生 神田 聡



月日が経つのは早
いもので短大を卒業
して早二年。現在専
門店レストランチエー
ンを展開する会社
に職についている。「二年で店長になれる！」
などという口車にのせられて入社したもの

の、幸か不幸か一年で店長にさせられてし
まった。一年間店長職をやり最近になって
私達の年代とさほど変わりのないバイトに
変化がみられることに気付いた。高校生の
頃、ファミリーレストランでバイトをして
いたが、はたしてあんなだつたらうか？と
少し考え込むような行動をするのである。
遅刻が多い。しない人は全くしないのだが
する人はいつもする。注意するがあまり効
果がない。また仕事の段取りが悪い。一時
間で終える仕事を二時間かけてやる。それ
を指摘し改善を求めるがまるで進歩がない。
工夫して何とかやってやろう！という意志
がない。バイトでも、金をもらっているの
であり、大事な戦力であることを自覚して
頂きたい今日この頃である。「やっぱり我々
とは違っているな」と感じています。皆さ
ん何かいい知恵があつたら下さいな。

編集後記

昨年の会報で校正ミスがありましたこと
深くおわび致します。体調不十分や、仕事
が超多忙の時期と重なり十分な校正が出来
なかつたとはいえ、投稿いただいた方へご
迷惑をおかけいたしました。(編集委員N)